
世界征服

summer

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

世界征服

【Nコード】

N8824P

【作者名】

summer

【あらすじ】

N国の山中にある男が勝手に作ったY国。人類を滅亡させるほどの兵器を持つというその国の要求とは・・・

小さな島国のN国。その都会の外れに、それほど高くないが森の深い山があつた。その山をある男が買い、小屋を建てて住み着いた。ところがその男、自給自足で生活しているのか山に入ったつきり全く姿を現さない。最初はいろいろな噂もささやかれたが、これといつて害がある訳でもなし、いつしか町の人達はその男がどんな男だったかも忘れてしまつていた。

しばらくたつたある日、ずっと町の税金を払つていなかったので、町の役人がその男を訪ねた。

「こんにちは。今日お伺いいたしましたのは、町の税金をお支払い頂きたく・・・」

男はドア越しに答えた。

「そんなものは払う必要はない。」

「おっしゃりたいことは分かります。確かにこちらは公共の電気、水道、ガスも使っていないのですし、ここまでの道路も整備されてませんから・・・しかしこの町に住んでいる以上、すべてのみなさまから税金は頂かなくてはなりません。納税は国民の義務ですのでどうかご理解頂けないでしょうか。」

「いや、私はもはやこの国の国民ではない。私が住み着いたその日から、この山は独立国家Y国なのだ。」

「え？独立国家・・・」

役人は予想外の答えに驚きながらも、職務を果たすべく冷静に答えようと努力した。

「・・・N国民ではないと言われますと、確かに納税の義務はないような・・・しかしあなたの言うY国なるものもN国の中にある訳でして・・・うーん、やはり私ではちょっと判断しかねますので、上司に相談してまたあらためて参ります・・・」

役人は町長にいきさつを報告した。しかし自分の町に独立国家を作られたなんて話は前代未聞。困った町長は、

「県民税も払っていないはずだから、県知事に相談しよう。」

すると、やはり困った県知事は、

「相手が独立国家というからには、国が対応すべきだ。」

とみな責任転嫁したあげく、あつという間に総理大臣まで話がいってしまった。

総理大臣は、まず状況を把握すべく国の役人を派遣した。

「いいですか、まず独立国家として世界に認められるには、『領地』

『国民』『主権』が必要なのです・・・」

男はやはり外には出てこず、またドア越しに答えた。

「この山が『領地』で私が『国民』であり『主権』だ。何も問題はない。さらに我が国は自衛の為の兵器も備えている。」

「な、なんだと、兵器！銃刀法違反だぞ！すぐに警察を呼んで・・・いや、違う国なら逮捕はできん。ならば軍を・・・いや、我が国の法律上こちらから先制攻撃はできん。なんと、この男1人に我がN国は手も足も出せないとは！」

役人は意外な事実打ちのめされつつ、最後の抵抗を試みた。

「国家機密だとは思いますが・・・一応職務上聞きます。その兵器とは何ですか？」

これまた意外にも、男はあっさり答えた。

「私が開発した新型の生物兵器だ。1リットルあれば人類が絶滅するほど強力なものだ。」

すぐに世界中の国が集まり、緊急会議が開かれた。

「もし彼がそれを気球に乗せて世界中にまき散らしたら、人類は絶滅してしまう！」

「しかもあの山からは、N国の首都に向かって1年中風が吹き下ろしている。もしY国かあの男に何かあつて生物兵器が漏れたら、N

国の首都にある世界中の大使館や外国人旅行者も巻き添えになってしまう。どこかの国が早まってY国を攻撃しないよう、Y国を厳重に警備しなければならない……」

「という事は……世界中どこの国もY国に手出しはできないという事か。」

「今のところY国は生物兵器を使うとは言ってませんが、とにかくY国の要求を聞いてみましょう。」

再び、N国の役人がY国を訪れた。

「えー、先日国際会議でY国の要求を聞いてみると言う事になりまして……」

男は今まで通り、ドア越しに答えた。

「我が国の要求は、N国を我が国の植民地とする事だ……そして我が国の意向は、今まで通りN国を通してのみ世界に伝える。もし我が国の意向に従わない国が1つでもあった場合は、ただちに兵器を発動させる……」

また世界中の国が集まり、緊急会議が開かれた。そもそもY国なるものを自国内に作られたN国に対して批判的な意見も出たが、N国を一番の被害者として擁護する国の方が多かった。そしてY国の要求を飲むか、人類滅亡か……選択の余地はなかった。結局、N国をはじめ世界中の国がY国の意向に従わざるをえないという事になった。

ある日、ねずみがエサを探しにY国の小屋に床下から侵入した。小屋の中には誰もおらず、ドアの内側に受信機をついたスピーカーがついているだけだった。

N国の首相官邸では、総理大臣がY国のスピーカーにつながっているマイクの前でほくそ笑んでいた。

「うまくいった。これで我がN国が世界征服したも同然だ。まずは我が国以外の世界中の国に軍事兵器を全て廃棄させて……」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8824p/>

世界征服

2011年1月8日20時02分発行